

新飯能

発行 党 日本共産党
飯能市委員会
973-1091

金子とし江 972-6401
山田とし子 973-4710
新井たたくみ 978-0175
滝沢おさむ 972-3875

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所416)
Mail jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

わずかな議論で決めては困る

必要な医療は公的な責任で

学習会に150名が参加

飯能市立病院を良くする会準備会が呼びかけた、病院問題の学習会が、二日に東吾野公民館で開催されました。地元自治会長や住民、患者ら一四七名の参加で、公民館集客室は満杯になり、ロビーなど会場の外まであふれました。

住民不在の計画だ

自治連東吾野支部長の高沢謙蔵さんが、開会に先立って挨拶。「市立病院の入院廃止ということには正式には話がない。いきなり広報に出されるなどということは住民不在でも認められない」と批判しました。

講師の桂木誠志さん(医労連書記次長)は、「転換期の公立病院―住民が求める市立病院にするために」と題して講演を行いました。



150名の参加で会場いっぱいの学習会(挨拶する高沢支部長)

市立病院の入院廃止問題

火事は初動の3分が大事

最初に医療を巡る情勢についてふれ、医師や看護婦不足の問題、医療改善により、患者が病院から追い出される状況が生まれていることを紹介。「公立病院はこの地域のように不採算医療という役割を担っており、税金が投入されて当然。民間ではできない医療として位置づけられていることをしっかり見なければならぬ」と強調。「公立病院の今後の在り方を考えるときには、市民要求の把握と市民参加という視点が必要だ。そうした点から見ると保健と福祉を考える懇談会が出した入院廃止案は、乱暴なやり方だ。市民に求められる病院にしていくなかには、市立病院と他の診療所、医療機関との連携や役割分担という視点が求められるのではないだろうか。また、地域活性化の観点からも地域から一企業が撤退するのと同じことで、地域の衰退にもつながる」と指摘しました。

第二回市民学習会 11月25日(土)

飯能市立病院を良くする会準備会から、「申し合わせ事項に基づいて、飯能市立病院良くする会を正式に発足させ、入院廃止に反対するとともに、市民にとって良い病院にするようみなさんと力を合わせていきたい。当面、署名運動に協力をお願いしたい」と、訴えがありました。

病院を良くする会を発足 署名運動を呼びかける

自治連東吾野支部長の野孝さんは、「懇談会がわずかな時間の論議でこんな重要な結論を出していいのか。市長はホットミーティングでは、地域の意見も聞き、同時にきちんとした調査もしたい。」

わずかな議論で決めては困る

桂木さんは最後に、「火事は最初の三分が大事。初動で入院廃止にストップをかけることが大事だ」と講演を締めくくりました。



午後1時30分
東吾野公民館ホール
講師 金川佳弘さん
青森県五所川原市立西北中央病院勤務/西北五地域医療を守る住民の会役員/自治労連医療部会
講演テーマ
飯能市立病院の分析と再建方向について(仮題)

波 紋

津南から秋山郷に向かいながら、新潟県中越大地震から丸二年を迎えたことが話題になりました。もうすぐ三度目の冬がやってくるというのに被災地では現在も千五百世帯四千六百人もの人たちが仮設住宅での生活を強いられています。政府は「日本は私有財産の国だから個人の財産への補償はできない」と、公的支援をかたくなに拒んでいます。憲法上の制約は何もないのに、▼狭い国道に入るとはるか下に川の流れて見えてきて緊張します。のよさの里で食事を予定していたのですが、いっぱい断られてしまいました。この辺は昨年の大雪で道路が寸断されてライフラインが止まってしまったところ。こんな美しい紅葉の里もまもなく雪にとざされてしまうのでしょうか。雪害の少ないことを祈るばかりです▼やっとなどついたお店で昼食にありついたのですがそこにはもうストーブの火が赤々と燃えています。

手をつなごう 子どもたちの今、そして未来のために

保育合同研究会報告集会を開く

二十日、富士見公民館で全国保育問題研究会の飯能実行委員会が報告と学習会を行いました。八月五日から三日間、埼玉を会場に、全国から保育所や幼稚園の保育者・保護者・経営者などで、保育や子育てについて実践を交流しあい、今後の



公立・私立で実行委員会作る

実行委員長の大河原よしえさん（すぎのこ子保育園園長）が、三二八回目となった『合研』に初めて公立、私立で実行委員会をつくって取り組むことができ、大成功だった」と挨拶し、報告では保育歴三年目の男性保育士、中里さんが駐車場の

要員として猛暑の中奮闘した様子、参加者との熱い心のふれあいや連帯を感じたことが報告されました。保護者の林さんは、分科会で「父親と保育」に参加した感想を述べました。公立保育所から参加した保育士さんは、レベルの高い研修会だったと前置きして、駐車場係だったが、参加者の熱気に暑さも忘れたこと。分科会では神戸や名古屋、吉川市の民営化に対する取り組みを学んだこと、精神科医の香山リカさんの講演の感想などが報告されました。

民営化でへい害が

浅井春夫さんの講演では、いろんな形の民営化

市民要求実現の立場で奮闘

党議員団が九月議会報告会

二五日、日本共産党飯能市議団は、九月議会の報告会を市民会館で開催しました。

九月議会の特徴として、金子敏江市議団長からは、国民健康保険の条例改正により葬祭費が十万円から五万円に引き下げられた事、補正予算では平成十七年度の様々な事業の



切り詰め、特に福祉関係の大幅な削減により九億七千五百万円の繰越金が計上され、財政調整基金に六億八千万円も戻し、山手町用地の取得基金に三億円が積み立てられたなど、市民の福祉やサービスを犠牲にしている市の姿勢が浮き彫りになりました。一般質問では高

で追求をした報告。新井巧議員からは市立病院の入院廃止問題について地元住民との共同した取組を紹介、報告されました。滝沢修議員は、老朽化が著しい双柳学童クラブの建替え問題や精明学童クラブの早期開所に向けての話がされました。参加者からは市議団の取組がよく解かった、これからも市民の立場にたって奮闘してほしいとの激励が寄せられました。



今年から始まった吾野・東吾野・名栗・原市場・南高麗地域など山間地域

山間地振興の動き始まる

井上・山の子会が間伐講習会

を対象にした山間地域振興事業は、四七件が決定し、花による地域づくり、農作物販売促進、景観間伐促進事業などが開始されています。

東吾野の井上・山の子会（浜中政雄会長）は、花木の植栽と森林の間伐・草刈りなど地域で進めていく計画ですが、第一回の事業として、二二日に間伐講習会を行いました。

うと呼びかけました。最後に実行委員会から「手をつなごう、子育ての輪」として引き続き、取り組んでいくことが確認されました。



森の番人の鈴木伸一さん

この講習会には、森の番人の鈴木伸一さんと元経験者がリーダーとなり、機材の安全な扱い方について指導してもらいました。間伐する杉を狙ったところへ倒すための受け口切りやロープ上げなど実習しました。山の子会では、十一月十二日に地域住民の参加も呼びかけ、手打ちうどんやバーベキューなどで発会式を計画しています。

第40回 はんのう

母親大会

子どもを 平和を 暮らしを守りたい

11月11日(土)

午後1時30分～4時30分

飯能市総合福祉センター3階ホール

教育基本法、平和憲法

何を変えようというの？

なぜ消費税を上げなければならないの？

講師 井上みよさん

元新日本婦人の会会長

主催：飯能地区母親大会実行委員会